

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	世田谷区上北沢4-25-3
園名	世田谷区立上北沢保育園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

わくわく園庭

<テーマの設定理由>

砂や草花に興味を持ったり、気づきを保育士に話したりする児が多い。子ども達の気づきを大切にしながら、関心や興味を広げていけるようにするため。そのためにはどのような環境構成をしていけばよいのか、保育士も子ども達と一緒に興味を広げ、職場全体で保育を楽しむワクワクする気持ちを育てていきたい。

### 2. 活動スケジュール

7月 木製ベンチ、可動式マット購入  
9月 園庭倉庫整理 泥団子づくり用品購入  
10月 木製の園庭玩具棚購入  
～3月  
継続して遊んできた  
ごっこ遊び、基地づくり、泥団子づくりなど

※11月、2月保護者向けドキュメンテーション配信

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

泥団子用品（土・ワゴン）可動式遊具（マット）木のベンチ、砂場玩具、砂場玩具棚

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- ① 砂遊び（ダムづくり、トンネルづくりなど）
- ② 泥団子づくり
- ③ 基地づくりなど可動式遊具を使った遊び

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

###### ① 砂遊び

園の砂場玩具の見直しを行う。子ども達が主体的に遊びを発展していけるように、遊びの様子を見ながら玩具をそろえていった。砂場玩具の数を増やした事で子ども達の遊び方に変化が見られる。また、玩具を揃えたので収納の仕方も見直した。かごに入れて収納していたが子ども達が見てすぐにわかる“並べる収納”を取り入れた。あえて置き場所を指定せず子ども達が自由に入れられるようにした。「こうしたほうがきれいにみえる」「いろをおなじにしてみたよ！」と子ども達が楽しみながら収納している。どこに何があるかわかることで遊びの中でイメージが湧いたときにすぐにとって遊べるようになった。

収納する高さも違う木製玩具棚。



「いらっしゃいませ！」玩具が増えた事で遊びの幅が広がっています。ごっこ遊びも盛んです。

###### ② 泥団子づくり

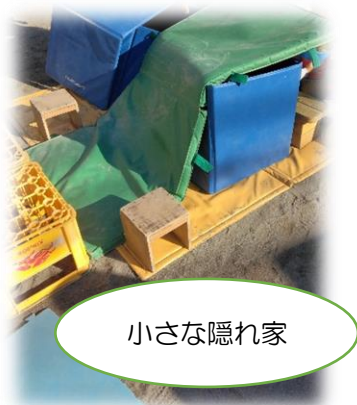
荒木土と泥団子用のタライ、作り途中の泥団子を収納しておくワゴンと泥団子の書籍を購入した。最初は土の感触に「きもちわるい」と敬遠していた児もいたが、保育士が固い泥団子を作って見せると「どうやって作ればそうなる？」と興味を示す。自分たちで書籍を読み、調べ、「ねかせることが大事らしい」などと言いながら試行錯誤を繰り返し継続して遊んでいる。年長児が少し光った泥団子を作ると「すごい！」と3歳、4歳児は見に行く。真似して作ってみようとしていたり、作り方を教えてもらったりしている。まだ光る泥団子を完成させた児はいないが、次年度も継続して遊んでいきたい。



泥団子保管用ワゴン

③ 基地づくりなど可動式遊具を使った遊び

折りたたみ式マットを購入。最初は広げて寝たりして遊んでいたが、マットが立つ事がわかると組み合わせて遊び始める。継続していくうちに立体を作ってみたり、いろいろなマットを組み合わせてみたりして楽しんでいる。ビールケースも使っているが、大きなケガが予測される場合以外は子ども達の主体性を大切に、保育士はなるべく声をかけず見守るようにしている。大きい児の遊びを真似て作ってみる姿や、異年齢児で関わりながら遊ぶ姿も多くなってきている。



5. 振り返り<振り返りによって得た先生方の気づき>

・玩具をそろえるだけではなく、保育士が子どもと一緒に遊ぶ事で子どもの【その時】の姿に合わせて環境を整えていくことができた。写真を使ったドキュメンテーションを作成することで、乳児クラスの保育士など園全体の職員と保育の共有をすることができ、さらに保護者に向けても自分たちの保育を発信し共有することが出来た。園庭の環境を整えていくためには園のチーム全員で同じ方向を向く事が大切であり、次年度の課題として保育の共有の仕方、共有だけではなく意識を変えていくためにはどうすればよいかさらに深めていきたい。